

本書の内容

本書は、李家5代の家伝の鍼灸臨床経験を集めたものであり、中医学の弁証論治の特色を示す鍼灸処方専門書である。本書の内容は豊富であり、論治は適切であり、臨床における実用価値のある、鍼灸臨床医のための得難い必修書である。また科学研究・教育および学科の発展にとっても、一定の参考価値がある。本書の常用処方は、経穴の効能と配穴後の協同作用を踏まえて創製されたものであり、さらに病機と証型を結び付けて、全身治療と弁証取穴を行うものである。

本書は、総論・各論に分かれており、合計で15篇、49の処方を記載している。総論は、処方論・鍼灸と方薬・経穴の効能と配穴後の協同作用・家伝補瀉法の変遷および臨床応用・処方の主治範囲の一般的法則・医話の6篇からなり、各論は、補益類・温陽類・清熱類・理気血類・去風類・去痰類・安神類・調胃腸類・その他の9篇に分かれている。各処方を1ユニットとし、起源、経穴組成、操作方法、効能・効用、主治範囲、方証解説、主治病証、臨床応用、症例、処方比較、注意事項、その他の12の内容が記してある。

なかでも、方証解説と臨床応用が非常に重要であり、方証解説は、経穴の効能と病因・病機の2つの角度から、方証の特徴・処方構成のメカニズムや、方と証の対応弁証の関係を示している。一方、臨床応用は臨床における応用方法を具体的に示しており、病証の証型の特徴を踏まえて、臨機応変に加減・変化を加えている。また附録は、誤治症例の分析と医話の2篇に分かれており、医話はさらに、筆者の祖父の医話と、父の医話の2部に分かれている。ともに数十年の経験から得られた知識や技術が盛り込まれたものであり、内容は広範囲かつ非常に豊富であり、一読の価値がある。

本書『祖伝鍼灸常用処方』（日本語版『中医鍼灸 鍼灸処方学』）は、『常用腧穴臨床發揮』（日本語版『中医鍼灸 臨床経穴学』）・『鍼灸臨床弁証論治』（日本語版『中医鍼灸 臨床發揮』）とともに鍼灸3部作と呼ばれている。経穴の効能から、処方の組成および臨床論治に至るまで記しており、完全な鍼灸の弁証論治体系を形成し、我が一族の学問となっている。